



▲「道南口説」本番の1コマ。息を合わせるのに苦労したぞつ。
 ▲「風雪流れ旅」を踊る牧野さん(写真真手前)。

話します。「何かに打ち込むことが大事」と考える萩原さん。「厳しい練習があったからこそ、今、踊り終わったときの快感があります。今までの努力すべてが報われた気がしません」と話してくれました。

また、同じクラブのメンバーで八軒在住の牧野文子さんは、老人クラブの良さは「発展性」にあると言います。「人との出会いが、次の出会いを生んで、新しい世界を知ることができる。どんどん枝葉が伸びていくんです。新しいことに触れたり、挑戦したりして心を弾ませていることで、元気でいられます」と話す牧野さんの笑顔の若々しいこと。「老人クラブに入って人生が豊かになりました」とにっこりとほほ笑んでくれました。

2

自分のために やってます

「体を動かしてないと落ち着かないですよ」と話す琴似在住の野田光男さんは、シルバー人材センターに登録してJR琴似駅などで駐輪場の誘導整理員をしています。

「足腰も丈夫だし、病気もしないのはこの仕事のおかげ。自分の健康のためにやっているんだよ」と話す野田さん。シルバー人材センターに登録している約20人の誘導整理員の作業予定などを決める「世話人」を務め、交代しながら月に10回ほど働いています。作業は午前または午後1回2時間。JR琴似駅の場合、周辺駐輪場の自転車は約千500台に上ります。この中で倒れていたり、駐輪場からはみ出したりしている自転車を二人一組で整理して回ります。この日の相棒は発寒在住の高橋久三さん。お二人にこの仕事を始めたきっかけを聞くと、異口同音に「定年して家にも暇だったからさ」とサラッと答えて笑います。今では、地域の役にも立っているというやり

がいと責任を感じています。実際、お話を聞いている間にも自転車は増え、中には通行の妨げになるものも。「私は83歳だけどね、まだまだやれますよ。仕事に来るのが楽しみだし、体が動く限りずっと続けたいね」とそう言いながら、野田さんはたくましい背中を揺らしながら作業に戻っていきましました。



▶高橋さん。「定年後に何かやりたいことがないか、自分から探したのさ」

シルバー人材センターとは？

働くことを通して社会参加し、生きがいの充実と健康の増進を図るとともに、活力ある地域社会づくりに貢献することを目的とする公益法人。

就職は望まないけれど、健康で働く意欲の旺盛な高齢者（おおむね60歳以上）が、長年の経験や技能を生かして、あて名書き、除草、除雪、植木の手入れ、家事手伝いなど、さまざまな分野で活動しています。

会員は随時募集中。西区・北区・手稲区を受け持つ西支部では、現在約1,300人が登録しています。詳しくは下記まで。

問い合わせ先
 (社)札幌市シルバー人材センター西支部
 所在地：琴似2条2丁目 高道ビル2階
 電話：615-8228

